

この子たちの夏

1945・ヒロシマ ナガサキ



写真の下駄は広島平和記念資料館所蔵、市立第一高等女学校1年生、美代子さんの遺品。

動員学徒として建物疎開作業中、爆心地から550mの地点で被爆。

遺体は行方不明のまま二ヶ月後に母親が発見。母の着物で作った鼻緒であったため、

美代子さんの物と分かった。寄贈者は母、井上富子さん。(撮影:土田ヒロミ)

出演（五十音順）
旺なつき
かとうかず子
島田歌穂
床嶋佳子
西山水木
根岸季衣
原日出子

[5日13時] 構成・演出＝木村光一
[6日14時] 装置＝石井強司
照明＝古宮俊昭
効果＝深川定次
演出補＝シライケイタ
舞台監督＝井川学

死期がせまり、わたしも思わず、お母ちゃんもいっしょに行くからね、と申しましたら、
あとからでいいよ、と申しました。……お母ちゃんにあえたからいいよ、とも申しました。

2023年8月5日[土]13時／17時・6日[日]14時 ■一般発売日=6月27日[火]
シアタートラム

Simultaneous English translation will be provided
at all performances. (Free rental of ear-sets)

■主催＝公益社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター
地人会新社

■提携＝公益財團法人せたがや文化財団 世田谷パブリックシアター

■後援＝世田谷区／世田谷区教育委員会

競輪の補助事業
この事業は、競輪の
補助を受けて実施します

■チケットの取扱い・お問い合わせ＝J-Stage Navi ☎03-6672-2421 (平日12:00~18:00) <http://j-stage-i.jp>



この子たちの夏

1945・ヒロシマ ナガサキ

短歌 俳句の朗読 || 演出補 = シライケイタ

舞台監督 = 井川学

照明 = 古宮俊昭

効果 = 深川定次

装置 = 石井強司

演出 = 鈴木麻美

公塚千晴

高橋瑞葵

田下京佳

横田明日香

かとうかず子



出 演
(五十音順)

旺なつき



西山水木



根岸季衣



島田歌穂
[5日13時]



原日出子



高橋瑞葵



田下京佳



横田明日香

構成・演出 = 木村光一

——寄せられた感想より——

■ヒロシマ・ナガサキにバクダムがおどされ、私と同じくらいの女の子と男の子がなくなりました。せんそは、もうしたくありません。(女性・7歳)

■私たちがつらいと思つてゐる日々は、たくさんのが生きるものでできました。彼らが成し遂げられなかつた明日を、彼らが死ぬほど生きたかつた今日をせいいっぱい生きて行こうと、この公演で学べました。(女性・12歳)

■出演者の方々の生の声を通して、本やテレビなどでは気づくことのなかつた被爆者の気持ちや思ひに気づかされた。

■学校の先生にこの公演のお話を聞き、興味を持ち、観に来ました。戦争のことは授業でも習うけど教科書の文字とは違つた原爆で被害にあつた人の中身、姿をみた気がしました。(女性・14歳)

■どんどん便利になつてゐるいま、戦争があつたこと、何も悪くない人々が残酷な「なり方」をしていたという事実を、現代がどれだけ平和であるのかということを、私が今日感じたように周りに伝えていけたらなどと思いました。(女性・21歳)

■自分の子供達の姿を重ねあわせ、とても辛かったです。今日は、7才の息子とともに、聞かせていてただきました。彼が何を感じてくれたか。2人で話してみたいと思います。(女性・21歳)

■6人の女優は、この子たちの6人の母親でした。演ずる世代が違うとこんなにも印象が変わるものかと、前の舞台を見ているので、そう思いました。祈りから希望へ、両方の舞台を見て、感じました。悲しさだけでなく、生き抜いていく悲しい明るさも伝わってきました。

■2才の時に広島で被爆しましたが記憶全く無く、ただ母の話しを耳にし育ちました。語り継ぎたく語り部に努めおります。映像よりも生の声の朗読に心打たれ、今後、朗読を学ぶ決意いたしました。(女性・73歳)

■被曝したその時、もし私ども母さんが一緒にいたら、きっとお母さんは火傷して腐臭をはなつ私でも抱きしめてくれるんだろうな、と、母の愛を深く今感じています。(無記入)

唯一の原子爆弾での被爆国である日本。日本人としての経験を記録でなく記憶に留めたいと、構成・演出の木村光一が遺稿や手記、詩歌など膨大な資料の中から、テーマを「母と子」に絞り朗読劇としてまとめたのが本作品です。

体験をせざるを得なかつた少年の思い……。普通の生活を送つていた人々の言葉は、人を思いやる気持ちや優しさに溢れ、そしてもっと生きたかったという思いが見えかくれしているのです。

1985年の初演以来、全国47都道府県、403市町村で819回の公演を行つてきました。

「生きよう、生き抜こう!」という25歳の女性がのこした言葉は、今の私たちへのエールとも聞こえます。

死を前にし、遺した子供たちの言葉。大豆ご飯を食べなかつた息子を叱つたまま、補習授業の学校へ送り出した母の後悔。目の前で親兄弟を荼毘にふすという想像も出来ないました。

それでも夏は巡つてきます。暑い夏の一日、生きる力を見つけに劇場にお越し下さい。

(無記入)

2023年8月

5日[土]13時/17時

6日[日]14時

シアタートラム 開場は開演の30分前

●一般前売開始 6月27日[火]

●チケットの取扱い・お問い合わせ J-Stage Navi

03-6672-2421 (平日12:00~18:00)

<http://j-stage-i.jp>

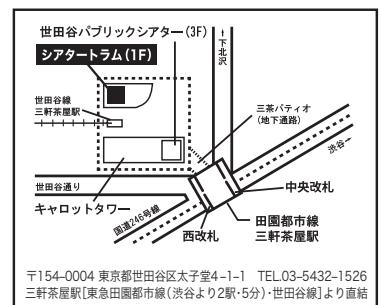
主催: 公益社団法人 国際演劇協会 (ITI / UNESCO) 日本センター
地人会新社

提携: 公益財團法人 せたがや文化財団 世田谷パブリックシアター
後援: 世田谷区/世田谷区教育委員会

Simultaneous English translation will be provided at all performances. (Free rental of ear-sets)

●車椅子スペースのご案内(定員有・要予約) ○料金: 一般料金より10%割引(付添者は1名まで無料) ○申込: ご希望日の前日19:00までに 03-5432-1515 世田谷パブリックシアターチケットセンターへ

●託児サービスのご案内(定員有・要予約) ○料金: 2,200円 ○対象: 生後6ヶ月以上9歳未満(障害のあるお子様についてはご相談ください) ○申込: ご希望日の3日前正午までに 03-5432-1526 世田谷パブリックシアターチケットセンターへ



世田谷パブリックシアター/シアタートラムでは、劇場ガイドラインに基づき新型コロナウイルス感染拡大予防のために対策を講じて公演を行います。

必ず事前に劇場ホームページにて詳細をご確認の上、チケットのご購入・ご来場をお願いします。